

A-1 冠攣縮誘発試験について正しいのはどれか。

- a 誘発薬物は経口で投与する。
- b 誘発にはβ遮断薬を用いる。
- c 診断に対する感度、特異度は30%と低い。
- d カルシウム拮抗薬は検査2日以上前から休薬させる。
- e 急性冠症候群患者の緊急冠動脈造影時に施行する。

A-2 腎動脈狭窄症について正しいのはどれか。

- a 低レニン高アルドステロン血症の高血圧をきたす。
- b 両側腎動脈狭窄症に対しACE阻害薬は原則禁忌である。
- c 高齢者では線維筋性異形成によるものが多い。
- d 二次性高血圧の原因疾患で最も多い。
- e 腎萎縮や腎臓の左右差を認めない。

A-3 急性心外膜炎を合併しないのはどれか。

- a 悪性腫瘍
- b 急性心筋梗塞
- c COVID-19ワクチン接種
- d 肥大型心筋症
- e 放射線照射

A-4 心不全発症時に左室拡張期圧が上昇しないのはどれか。

- a 大動脈弁狭窄症
- b 僧帽弁狭窄症
- c 肥大型心筋症
- d 大動脈弁閉鎖不全症
- e 拡張型心筋症

A-5 肺リンパ管管腫症(LAM)について誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 高齢女性に発症する。
- b 喫煙が発症の危険因子である。
- c 乳び胸の原因となる。
- d 気胸を合併する。
- e 肺移植の適応である。

A-6 肺炎予防のためのワクチンがあるのはどれか。

- a 緑膿菌
- b MRSA
- c 肺炎球菌
- d 肺炎マイコプラズマ
- e 肺炎クラミジア

A-7 肺非結核性抗酸菌症ガイドラインにおける診断基準を満たすのはどれか。

- a 喀痰から非結核性抗酸菌が1回培養同定された。
- b 病変部の経気管支肺生検の組織所見で乾酪壊死を伴う類上皮細胞性肉芽腫を認めた。
- c 末梢血の結核菌特異的全血インターフェロングamma遊離測定法(IGRA)が陽性であった。
- d 末梢血のMAC抗体が陽性であった。
- e 病変部の気管支肺胞洗浄液から非結核性抗酸菌が1回培養同定された。

A-8 腫瘍随伴症候群とホルモンの組合せで誤っているのはどれか。

- a Cushing症候群 ————— Adrenocorticotrophic hormone
- b 高カルシウム血症 ————— Parathormone-related peptide
- c 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 — Antidiuretic hormone
- d 異所性ゴナドトロピン分泌症候群 — Human chorionic gonadotropin
- e 末端肥大症 ————— Insulin-like growth factor

A-9 糖新生、グリコーゲン合成と最も関連する臓器はどれか。

- a 肝臓
- b 脾臓
- c 小腸
- d 骨格筋
- e 脂肪組織

A-10 糖尿病による自律神経系障害で認めないのはどれか。

- a 発汗減少
- b 起立性低血圧
- c 無症候性心筋虚血
- d 胃内容物排出時間延長
- e 呼吸性心拍変動増強

A- 11 低カルシウム血症、高リン血症およびPTH高値を認める病態はどれか。2つ選べ。

- a ビタミンD欠乏
- b 慢性腎不全
- c 偽性副甲状腺機能低下症
- d 悪性腫瘍
- e 免疫チェックポイント阻害薬

A- 12 特定健康診査（メタボリックシンドローム健診）について正しいのはどれか。

- a 腹囲測定は必須ではない。
- b メタボリックシンドロームの基盤病態は皮下脂肪の蓄積である。
- c メタボリックシンドロームの血糖値判定基準は空腹時126 mg/dL以上である。
- d メタボリックシンドロームの収縮期血圧判定基準は130 mmHg以上である。
- e メタボリックシンドロームの脂質判定基準はLDL-コレステロール140 mg/dL以上である。

A- 13 尿検査について正しいのはどれか。

- a 正常尿のpHは8.5以上である。
- b 正常尿比重は1.020を超えない。
- c 尿沈渣の赤血球数は拡大（100倍）で算定する。
- d 尿沈渣の検体処理は1,500rpmの遠心を5分間行う。
- e 硝子円柱は正常尿ではみられない。

A- 14 中心静脈へのカテーテル留置や内シャント（ブラッドアクセス）が必要なく行えるのはどれか。

- a 血液透析
- b 持続緩徐式血液ろ過透析
- c 血漿交換療法
- d 腹膜透析
- e 血液ろ過

A- 15 大脳皮質病変を最も示唆する症候はどれか。

- a 観念失行
- b 断綴性言語
- c ヘミパリスム
- d Babinski徴候
- e Wernicke-Mann肢位

A- 16 心原性脳塞栓症の原因として最も頻度が高いのはどれか。

- a 心室細動
- b 心室頻拍
- c 心房細動
- d 房室ブロック
- e 洞不全症候群

A- 17 狭窄率が90%の症候性頸部頸動脈狭窄症に対する脳梗塞再発予防薬はどれか。

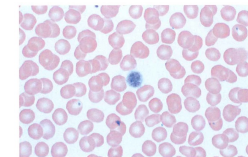
- a アスピリン
- b ステロイド
- c ワルファリン
- d カルバマゼピン
- e ベタヒスチンメシル酸塩

A- 18 転座と疾患の組合せで誤っているのはどれか。

- a t(8; 21) ————— 急性骨髄性白血病
- b t(9; 22) ————— 急性リンパ性白血病
- c t(9; 22) ————— 慢性骨髄性白血病
- d t(14; 18) ————— 成人T細胞白血病
- e t(15; 17) ————— 急性前骨髄球性白血病

A- 19 末梢血塗抹May-Giemsa染色標本（別紙 A-19）を別に示す。鑑別すべき疾患はどれか。2つ選べ。

- a 再生不良性貧血
- b 骨髄異形成症候群
- c von Willebrand病
- d Bernard-Soulier症候群
- e 発作性夜間ヘモグロビン尿症



A- 20 造血幹細胞から骨髄系共通前駆細胞を経て産生される血球でないのはどれか。

- a 単球
- b 赤血球
- c 好中球
- d 血小板
- e 形質細胞

A- 21 関節リウマチの治療標的となっている分子はどれか。

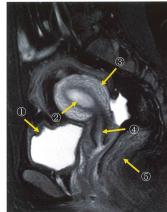
- a IL-17
- b JAK (Janus Kinase)
- c TLR (Toll-like receptor) -4
- d PD (programmed cell death) -1
- e VEGF (vascular endothelial growth factor)

A- 22 CTおよびMRIの造影剤について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 造影剤腎症 (contrast induced nephropathy) はCTのヨード造影剤による腎障害のことである。
- b MRIのガドリニウム造影剤はCTのヨード造影剤に比して体重1kgあたりの投与量が多い。
- c MRIのガドリニウム造影剤はMRCP (MR胆管膵管造影) の撮像に使用する。
- d MRIのガドリニウム造影剤を用いた造影検査はT2強調像を用いて行う。
- e CTのヨード造影剤は透析を行っている患者に投与することができる。

A- 23 骨盤部MRIのT2強調矢状断像 (別紙 A-23) を別に示す。別紙に示す番号 (①~⑤) と番号が指す部位の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a ① \_\_\_\_\_ 恥骨
- b ② \_\_\_\_\_ 筋層
- c ③ \_\_\_\_\_ 辺縁域 (peripheral zone)
- d ④ \_\_\_\_\_ 頸管上皮
- e ⑤ \_\_\_\_\_ 直腸



A- 24 術後照射を除く外部照射で、根治目的の対象となる病期Iの疾患はどれか。

- a 乳癌
- b 胃癌
- c 結腸癌
- d 食道癌
- e 甲状腺乳頭癌

A- 25 前立腺癌の骨転移に行われる放射線治療はどれか。2つ選べ。

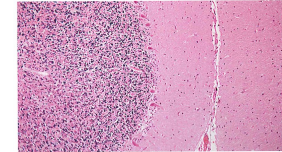
- a 電子線による外部照射
- b 陽子線による外部照射
- c ガンマ線による外部照射
- d エックス線による外部照射
- e 塩化ラジウムによる放射性同位元素内用療法

A- 26 現在国内で利用できるRI内用療法の適用として誤っているのはどれか。

- a 分化型甲状腺癌の肺転移 **I**
- b 肺腺癌の脳転移
- c 去勢抵抗性前立腺癌の骨転移 **R<sub>a</sub>**
- d 治癒切除不能な肺神経内分泌腫瘍 **Lu**
- e 治癒切除不能な褐色細胞腫 **I**

A- 27 正常の中樞神経組織のH-E染色標本 (別紙 A-27) を別に示す。部位はどこか。

- a 大脳
- b 中脳
- c 小脳
- d 橋
- e 延髄



A- 28 消毒用アルコールの効果がないのはどれか。2つ選べ。

- a プリオン
- b *Candida albicans*
- c インフルエンザウイルス
- d *Clostridium difficile*
- e メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)

A- 29 梅毒について誤っているのはどれか。

- a 梅毒はオーラルセックスでも感染する。
- b コンドームの使用で梅毒の二次感染防止ができる。
- c 近年、早期顕症 (I期+II期)梅毒の届け出は増加している。
- d 妊娠女性が罹患し治療が遅れると、先天梅毒の児が生まれる可能性がある。
- e 治療はペニシリンを第一に選択する。

A- 30 メタ分析 (メタアナリシス) について正しいのはどれか。

- a 異なるアウトカム指標を統合する分析である。
- b 効果推定量をファンネルプロットで評価する。
- c サンプルサイズが少ない研究は研究対象から除外される。
- d 英語のみならずその他の言語で書かれた論文も研究対象とする。
- e 出版バイアスを防止するためにできるだけ多くの研究対象とする。

A- 31 研修医と指導医の会話を示す。

研修医：「新型コロナウイルス感染症で入院中のAさんについてですが、今朝から様子がおかしいんです」  
 指導医：「状況を教えてください」  
 研修医：「少しぼんやりしています。昨夜、悪寒戦慄を伴い、39℃まで発熱したと看護師から報告されました。呼吸数は24回/分でした」  
 指導医：「PPE対応で血液培養2セットと血液検査をしておいてください」  
 研修医：「血液培養2セットと血液検査ですね」  
 指導医：「それでお願いします」  
 研修医：「一緒に診察してもらえませんか。Aさんの様子が昨日までと全く違うので、私は不安です」  
 指導医：「では、一緒に診察してみましょう」

この会話で用いられているコミュニケーションスキルはどれか。2つ選べ。

- a クロスモニタリング
- b 2チャレンジルール
- c チェックバック
- d コールアウト
- e CUS (カス)

A- 32 がん対策基本法に関連する事項について正しいのはどれか。

- a 法施行10年でがんによる年齢調整死亡率は減少した。
- b コロナ禍でがん検診の受診数が増加した。
- c がんゲノム検査で診断される治療可能な遺伝子異常の頻度は約50%である。
- d 禁煙はがんの二次予防である。
- e がん患者の就労支援は法に含まれない。

A- 33 血清検体と比較して、血漿検体に当てはまる特徴はどれか。

- a 溶血が多い。
- b 凝固因子が含まれていない。
- c 蛋白分画への影響が少ない。
- d LDの偽高値が出にくい。
- e 採血から測定までに時間を要する。

A- 34 麻酔導入後に気管挿管を確認する方法はどれか。2つ選べ。

- a 腹壁の上下運動の確認
- b カプノメーターの波形確認
- c 胸部聴診法による呼吸音の聴取
- d 腹部聴診法による呼吸音の聴取
- e パルスオキシメーターの基線の揺れ

A- 35 76歳の女性。高血圧、糖尿病の診断で加療中であったが、管理は不十分であった。3日前の起床時に強い前胸部痛を自覚していたが、自宅で様子を見ていた。本日の朝になって胸部違和感の持続と突然の呼吸困難感を訴えて救急外来に搬送された。意識は昏迷状態。血圧 82/52 mmHg、脈拍数 102/分。心尖部にLevine III/VIの全収縮期雑音を聴取する。両側肺野に高度の湿性ラ音を聴取した。胸部エックス線写真では心胸郭比は48%で、両肺野のバタフライ陰影を認める。来院時の心電図(別紙 A-35)を別に示す。

この患者について正しいのはどれか。

- a 心電図では急性期の下壁心筋梗塞が疑われる。
- b 心雑音からは左室自由壁破裂が疑われる。
- c 心エコーでは左房・左室内を移動する異常なエコー像が観察される。
- d ドプラ検査では大動脈弁前後に高度の圧較差が観察される。
- e 内科的治療の継続が適切である。



A- 36 42歳の女性。呼吸困難を主訴に来院した。32歳時に強皮症と診断され、以降は内服治療を継続し定期的に通院していた。半年前から階段昇降時などの労作時に呼吸困難を自覚するようになったが日常生活には支障はなかった。その後も徐々に労作時呼吸困難が増悪し1か月前からは平地歩行で呼吸困難を自覚するようになり、最近は呼吸困難で家の中の生活にも支障が出てきたので受診した。意識は清明。体温 36.8℃。脈拍 90/分、整。血圧 112/58 mmHg。呼吸数 22/分。SpO<sub>2</sub> 92% (room air)。血液所見：赤血球 408万、Hb 12.8 g/dL、Ht 36%、白血球 7,800、血小板 18万。血液生化学所見：AST 94 U/L、ALT 88 U/L、尿素窒素 20 mg/dL、クレアチニン 1.0 mg/dL、尿酸 5.8 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 4.7 mEq/L、Cl 102 mEq/L。CRP 0.12 mg/dL。Dダイマー 0.5 μg/mL未満。その後、検査目的で入院となった。心エコー図(別紙 A-36A)と右心カテーテル検査の測定値の表(別紙 A-36B)を別に示す。

この患者に認められる所見はどれか。

- a 肺うっ血
- b 奇脈
- c II音の減弱
- d 下肢浮腫
- e 間欠性跛行

心エコー(左室短軸断面：拡張期)



右心カテーテル検査

肺動脈流入圧 (平均)	肺動脈圧 (収縮期/拡張期/平均)	右室圧 (収縮期/拡張期)	右房圧 (平均)
12mmHg	66/28/38mmHg	66/18mmHg	25mmHg

A- 37 81歳の女性。施設入所中。意識消失のため救急搬送された。本日、入浴後に着替えようとして浴室を出た際に突然意識を消失し倒れた。音に気付いた施設職員が慌てて呼びかけたところ、すぐに意識は清明となった。明らかな外傷や痙攣発作を認めない。既往歴：高血圧症のためサイアザイド系利尿薬を内服している。家族歴、生活歴に特記すべきことはない。意識は清明。血圧 102/68 mmHg、左右差は認めない。脈拍 86/分、整。体温 36.7℃。呼吸数 18/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。眼瞼結膜はやや蒼白である。眼球結膜に黄染は認めない。心音と呼吸音に異常は認めない。腹部は平坦、軟で、異常な拍動や腫大、圧痛は認めない。四肢に浮腫やチアノーゼは認めない。その他、全身に明らかな外傷や神経学的異常は認めない。検査所見：心電図、心エコー検査に異常は認めない。

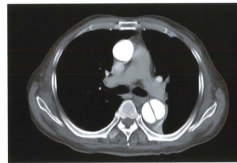
意識消失の原因として最も考えられるのはどれか。

- a 急性大動脈解離
- b 肺塞栓症
- c 大動脈弁狭窄症
- d 起立性低血圧
- e 閉塞性肥大型心筋症

A- 38 78歳の男性。畑仕事中に突然背部に激痛を生じた。休んでいても背部痛が改善しないために救急車で搬送された。高血圧にて近医を入院中であったが内服は忘れることもあった。身長 167cm、体重 60kg。血圧 190/110 mmHg、左右差なし。心拍数 90/分。心音と肺音に異常は認めない。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。四肢に麻痺を認めない。胸部造影CT (別紙 A-38) を別に示す。

この患者の治療薬で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 抗血小板薬
- b β遮断薬
- c 抗コリン薬
- d カルシウム拮抗薬
- e 抗凝固薬



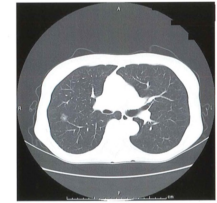
A- 39 76歳の男性。発熱と呼吸困難を主訴に来院した。3年ほど前から、咳と労作時呼吸困難にて、近医に通院し、処方を受けていたが、3か月ほど前から通院を自己中断していた。5日ほど前から、37.5℃の発熱が出現し、膿性痰、咳が増え、徐々に呼吸困難が増強するため受診した。喫煙は、30本/日を55年間、昨年禁煙している。来院時、意識は清明。身長 168cm、体重 50kg、体温 37.6℃。脈拍 97/分、整。呼吸数 21/分。SpO<sub>2</sub> 93% (room air)。喘鳴が著明で、吸気時に肥大した胸鎖乳突筋が目立つ。

この患者の初期治療として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 副腎皮質ステロイドの吸入
- b 短時間作用性β<sub>2</sub>刺激薬の吸入
- c 抗菌薬の投与
- d 喀痰調整薬の投与
- e 酸素療法

A- 40 60歳の女性。生来健康であった。胸部CT検診を初めて受診したところ、肺野の結節影を指摘された。胸部CT (別紙 A-40) を別に示す。

- a 咳嗽の原因となる。
- b 易感染宿主に発症する。
- c 気管支肺胞洗浄が診断に有用である。
- d PETで高集積を示す。
- e 予後は良好である。



A- 41 23歳の男性。喫煙歴はなし。3年前から鼻閉感、膿性の鼻汁もみられていたが、放置していた。1年前から膿性痰がみられるようになり、咳も出ていた。最近、膿性痰が更に増加するようになり、発熱も時にみられるようになったため、近医を受診した。胸部エックス線で異常を認め、精査目的で紹介受診となった。体温 37.5℃。脈拍 96/分、整。血圧 113/79 mmHg。呼吸数 18/分、整。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。胸部聴診上、両側下肺野でcoarse cracklesを聴取。血液所見：赤血球 547万、Hb 15.3 g/dL、Ht 44.9%、白血球 10,000。生化学所見：総蛋白 8.3 g/dL、アルブミン 4.9 g/dL、CRP 3.59 mg/dL。寒冷凝集反応 512倍。呼吸機能検査：%VC 82.0%、FEV<sub>1.0</sub> 58.5%。来院時の胸部CT (別紙 A-41) を別に示す。また、入院後に気管支鏡検査を実施し、経気管支肺生検を行ったところ、病理組織所見で細気管支周囲にリンパ球を中心とした炎症細胞浸潤を認めた。

この患者に対する治療薬として、正しいのはどれか。

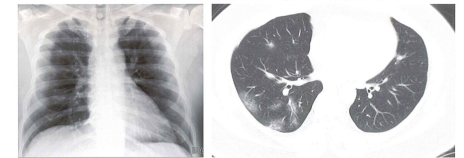
- a 副腎皮質ステロイド
- b リファンピシム
- c イトラコナゾール
- d エリスロマイシン
- e ガンシクロビル



A- 42 39歳の男性。高血圧症、糖尿病で通院中であった。1週間前に咽頭痛、発熱が出現し、その後呼吸困難も出現してきたため来院した。身長 175cm、体重 120kg。体温 38.5℃。SpO<sub>2</sub> 95% (room air)。血液所見：白血球 5,670 (好中球 72%、単球 8%、リンパ球 20%)、Hb 17.3 g/dL、血小板 15.8万、CRP 4.8 mg/dL、AST 40 IU/L、ALT 42 IU/L、γ-GTP 81 U/L、LDH 435 U/L (基準 124~222)、尿素窒素 15 mg/dL、クレアチニン 1.7 mg/dL、フェリチン 491 ng/mL (基準 10~240)、Dダイマー 4.2 μg/mL、鼻腔SARS-CoV-2のPCR検査陽性。胸部エックス線写真 (別紙 A-42A) と胸部CT (別紙 A-42B) を別に示す。

この時点の治療法で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a ワクチン接種
- b 副腎皮質ステロイド投与
- c 体外式膜型人工肺 (ECMO)
- d 抗ウイルス薬投与
- e ヘパリン投与



A- 43 45歳の男性。これまでの健康診断で異常を指摘されたことはなく、また既往歴、手術歴、薬剤服用歴も全くなかった。数日前から動悸、冷汗などの低血糖様症状が出現し、近医を受診した。血糖 38 mg/dL、血圧 78/46 mmHg、Na 122 mEq/L、K 4.2 mEq/L。

この時点で最も考えられる疾患はどれか。

- a インスリノーマ
- b インスリン自己免疫症候群
- c 褐色細胞腫
- d 甲状腺機能亢進症
- e 副腎皮質機能低下症

A- 44 48歳の男性。健康診断で高血圧、耐糖能異常および脂質異常症を指摘され来院した。身長 168cm、体重 75kg。体温 36.6°C。血圧 148/96 mmHg。眉弓部の膨隆、鼻・口唇の肥大、下顎の突出、巨大舌を認める。

この患者に見られるのはどれか。

- a ソマトスタチン誘導体で成長ホルモン増加
- b ブドウ糖75g経口投与で成長ホルモン低下
- c インスリン様成長因子 (IGF-1) 高値
- d TRH負荷試験で成長ホルモン低下
- e 血清リン低値

A- 45 48歳の女性。3年前から高血圧症に対し降圧薬を処方されている。近医で血漿レニン活性 0.1 ng/mL/時間 (基準 0.5~2.0)、アルドステロン 180 pg/mL (基準 40~120) を指摘され来院した。身長 156cm、体重 53kg、脈拍 68/分、血圧 172/104 mmHg。

予想される検査所見はどれか。

- a 低尿酸血症
- b 高カリウム血症
- c 高カルシウム血症
- d 呼吸性アシドーシス
- e 代謝性アルカローシス

A- 46 23歳の女性。腹痛と悪心を主訴に来院した。3日前から37°C台の発熱があり、その後、著明な口渇、多飲および多尿をきたした。身長 158cm、体重 45kg。体温 37.8°C。脈拍 116/分、整。血圧 110/64 mmHg。呼吸数 28/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。皮膚のツルゴールは低下している。尿ケトン体3+。血液生化学所見：随時血糖 400 mg/dL、HbA1c 6.5% (基準 4.3~5.8)、尿素窒素 30 mg/dL、クレアチニン 1.3 mg/dL、Na 133 mEq/L、K 4.9 mEq/L、Cl 96 mEq/L。動脈血ガス (自発呼吸、room air)：pH 7.26、PaCO<sub>2</sub> 16 Torr、PaO<sub>2</sub> 105 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 7 mEq/L。

次に行うべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 生理食塩水の輸液を開始する。
- b スルホニル尿素薬を投与する。
- c 重炭酸ナトリウムを静注する。
- d 速効型インスリンの持続静注する。
- e 持効型インスリンを皮下注射する。

A- 47 70歳の女性。高血圧の精査目的で紹介となった。約10年前から高血圧を指摘されており、複数の降圧薬を処方されているが管理は不良であった。心雑音はない。臍周囲に血管性雑音を認める。脈拍 76/分、整。血圧 164/92 mmHg。尿所見：蛋白 (±)、潜血 (-)。血液所見：赤血球 421万、Hb 12.5 g/dL、Ht 33%、白血球 6,800。血液生化学所見：総蛋白 7.2 g/dL、アルブミン 4.6 g/dL、尿素窒素 22 mg/dL、クレアチニン 1.0 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 3.2 mEq/L、Cl 106 mEq/L。腹部造影CTにて、左腎動脈起始部の狭窄を認める。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 高血圧患者の約10%を占める。
- b 左右腎静脈レニン活性比が診断に有用である。
- c 血漿レニン活性は低下する。
- d 血漿アルドステロン濃度は上昇する。
- e レニン・アンジオテンシン系阻害薬は禁忌である。

A- 48 56歳の男性。腎機能異常を指摘されて来院した。9年前の健診で血糖高値を指摘されていた。1年前に浮腫を自覚し、近医で2型糖尿病と慢性腎臓病ステージG4期と診断されたが、通院が億劫で自己中断していた。2か月前に視力低下のため眼科を受診したところ高度な腎不全を指摘され、紹介された。身長 170cm、体重 76kg。体温 36.3°C。脈拍 66/分、整。血圧 134/76 mmHg。両下肢に高度の浮腫を認める。アキレス腱反射の消失を認める。尿所見：蛋白3+、尿糖3+、ケトン体 (-)、潜血 (±)。尿蛋白/尿クレアチニン比 5.2 g/gCr。血液所見：赤血球 300万、Hb 8.7 g/dL、MCV 87.0 fL、血小板 23万。血液生化学所見：総蛋白 5.9 g/dL、アルブミン 2.9 g/dL、尿素窒素 44 mg/dL、クレアチニン 4.3 mg/dL、eGFR 12.4 mL/分/1.73m<sup>2</sup>、随時血糖 164 mg/dL、HbA1c 7.1%、Na 140 mEq/L、K 5.2 mEq/L、Cl 110 mEq/L、血清鉄 81 μg/dL (基準 80~170)、TIBC 280 μg/dL (基準 290~390)、フェリチン 243 ng/mL (基準 7.4~86)。胸部エックス線写真で両側に少量の胸水を認める。

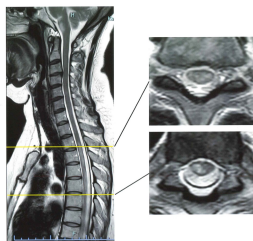
この患者に行うべき対応として正しいのはどれか。

- a 腎生検を行う。
- b スピロノラクトンを開始する。
- c ビグアナイド薬を開始する。
- d 腎代替療法の治療選択について説明を行う。
- e 鉄剤の内服を開始する。

A- 49 37歳の女性。両下肢筋力低下と歩行障害を主訴に来院した。2週間前に左大腿の異常感覚を自覚した。その後、異常感覚は左下肢全体から胸部へと広がっていった。1週間前からは両下肢に力が入りにくくなり歩行が困難となってきた。昨日から尿意を感じなくなり、吃逆や嘔吐などの症状もでてきたため受診した。5年前にも嘔吐と吃逆を繰り返したことがあり、その時は心因性嘔吐と診断された。既往歴にはSjögren症候群がある。意識は清明。体温 35.9℃、血圧 105/84 mmHg。脈拍 91/分、整。頭頸部・胸腹部には異常所見なし。脳神経には異常なし。両下肢に屈筋群優位の痙縮を伴う筋力低下、両下肢腱反射亢進、Babinski徴候陽性、両側Th3以下の全感覚鈍麻、膀胱直腸障害を認める。血液所見、血液生化学所見に異常を認めない。脳脊髄液検査：細胞数 65/mm<sup>3</sup> (単核球 80%、多形核球 20%)、蛋白 76 mg/dL (基準 15~45)、糖 65 mg/dL。脳脊髄MRIのT2強調像 (別紙 A-49) を別に示す。

この疾患で正しいのはどれか。2つ選べ。

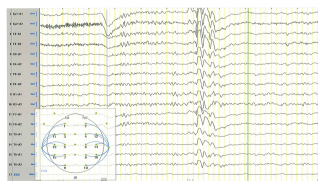
- a 日本人よりも白人で有病率が高い。
- b 脳脊髄液検査でオリゴクローナルIgGバンド陽性のことが多い。
- c 多彩な自己抗体が検出される。
- d 急性期にはステロイドパルス療法を行う。
- e 再発予防にインターフェロンβ製剤を用いる。



A- 50 23歳の女性。自宅でテレビを見ている時に意識障害と全身けいれんが出現し、救急搬送された。搬送時は意識清明で診察上、四肢の麻痺や失調を認めない。頭部MRIでも明らかな異常なし。脳液検査の結果 (別紙 A-50) を別に示す。病歴を聴取すると、これまでも時々手指のピクツキを自覚しており、中学生のころ、テレビゲームをしているときに全身強直性けいれんの既往があるとのことであった。

この患者に対する治療薬として適切なのはどれか。2つ選べ。

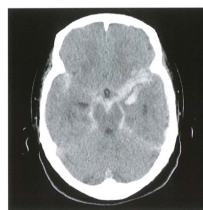
- a バルプロ酸
- b カルバマゼピン
- c レベチラセタム
- d エトスクシミド
- e ACTH



A- 51 50歳の男性。突然の頭痛をきたし、緊急受診した。意識はJCS II-10、麻痺はない。血圧は190/100 mmHg。脈拍 70/分、整。緊急で施行した頭部単純CT (別紙 A-51) を別に示す。

次に行うべき検査はどれか。2つ選べ。

- a 脳波
- b 腰椎穿刺
- c 脳血管撮影
- d 脳血流検査 (SPECT)
- e CTアンギオグラフィー



A- 52 74歳の女性。かかりつけ医から白血球増多、血小板増多を指摘され紹介受診した。体温 36.5℃。脈拍 72/分、整。血圧 136/78 mmHg。体表リンパ節を触知しない。脾を左肋骨弓下に3cm触知する。血液所見：白血球 142,000 (後骨髄球 1%、桿状核好中球 2%、分葉核好中球 67%、好酸球 1%、好塩基球 14%、リンパ球 14%、単球 1%)、Hb 13.9 g/dL、MCV 91 fL、血小板 110.0万。血液生化学所見：総蛋白 7.6 g/dL、アルブミン 4.3 g/dL、総ビリルビン 0.5 mg/dL、AST 20 U/L、ALT 13 U/L、LD 285 U/L (基準 120~245)、尿素窒素 16 mg/dL、クレアチニン 0.66 mg/dL、尿酸 3.4 mg/dL。末梢血好中球FISHにてBCR/ABL融合シグナルが96.9%陽性。

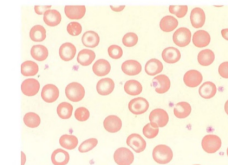
治療薬として適切なのはどれか。

- a ダサチニブ
- b リツキシマブ
- c アザシチジン
- d ルキシロチニブ
- e レボフロキサシン

A- 53 36歳の女性。貧血の精査で来院した。若いころから立ちくらみとめまいを感じている。血液所見：赤血球 510万、Hb 10.1 g/dL、Ht 31.2%、網赤血球 1.2%、白血球 4,200、血小板 18万、総鉄結合能 290 μg/dL (基準 290~390)。血清生化学所見：血清フェリチン 95 ng/mL (基準 20~120)、Fe 100 μg/dL。免疫血清学所見：CRP 0.3 mg/dL。末梢血塗抹May-Giemsa染色標本 (別紙 A-53) を別に示す。

確定診断のために有用な検査はどれか。

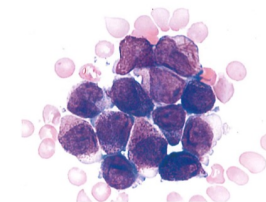
- a 骨髄生検
- b グロビン鎖合成比
- c 直接クームス試験
- d 赤血球浸透圧抵抗試験
- e CD59赤血球表面マーカー検査



A- 54 38歳の女性。血液検査値異常の精査目的で来院した。1週間前から37℃台の発熱と咽頭痛があった。昨日、自宅近くの診療所で実施した血液検査で異常がみられたため紹介されて受診した。既往歴に特記すべきことはない。意識は清明。体温 37.6℃。脈拍 92/分、整。血圧 98/60 mmHg。眼瞼結膜は貧血様。口腔粘膜に点状出血が散在し、咽頭発赤を認める。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、右肋骨弓下に肝を1cm触知する。脾は触知しない。両側下腿に点状出血を認める。血液所見：赤血球 305万、Hb 9.2 g/dL、Ht 29.6%、白血球 1,800 (桿状核好中球 6%、分葉核好中球 58%、好酸球 2%、単球 12%、リンパ球 22%)、血小板 2.8万。骨髄血塗抹May-Giemsa染色標本 (別紙 A-54) を別に示す。

この患者でみられる染色体異常はどれか。

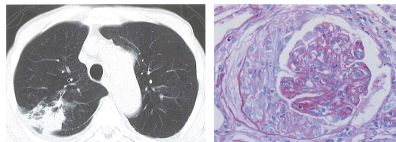
- a t(8;21)
- b t(9;22)
- c t(11;14)
- d t(14;18)
- e t(15;17)



A- 55 70歳の男性。2か月前から左耳の聞こえの悪さを自覚し、1か月前からは乾性咳嗽、両下腿浮腫が出現したために来院した。尿所見：蛋白3+、潜血3+、糖(-)。血液所見：赤血球 321万、Hb 10.4 g/dL、Ht 31%、白血球 9,200 (桿状核好中球 5%、分葉核好中球 60%、好酸球 3%、単球 5%、リンパ球 27%)、血小板 38万。血液生化学所見：尿素窒素 21 mg/dL、クレアチニン 1.99 mg/dL、LD 350 U/L (基準 176~353)、CK 52 U/L (基準 30~140)。免疫血清学所見：CRP 3.3 mg/dL、リウマトイド因子 (RF) 陰性、MPO-ANCA 3.5 U/mL未満 (基準 3.5未満)、PR3-ANCA 22.4 U/mL (基準 3.5未満)。胸部CT (別紙 A-55A)、腎生検PAS染色標本 (別紙 A-55B) を別に示す。

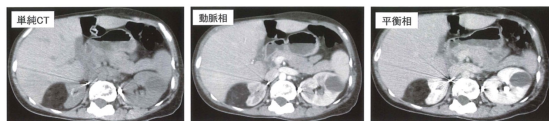
診断として最も考えられる疾患はどれか。

- a 抗GBM病
- b 顕微鏡的多発血管炎
- c 多発血管炎性肉芽腫症
- d 全身性エリテマトーデス
- e 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症



A- 56 40歳の女性。検診で両腎に腫瘍を指摘され来院した。自覚症状はない。腹部ダイナミックCT (別紙 A-56A~C) を別に示す。  
正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 右腎の腫瘍は脂肪成分の存在を疑う。
- b 右腎の腫瘍は男性に発生することが多い。
- c 右腎の腫瘍はvon Hippel-Lindau病に合併することがある。
- d 左腎の腫瘍は腎嚢胞を疑う。
- e 右腎の腫瘍は強い造影効果を示す。



A- 57 62歳の男性。心不全で外来加療中に、右下腹部痛のため救急受診し精査となった。数か月前から下痢と顔面の紅潮あり。セロトニンの代謝産物である尿中5-ハイドロキシインドール酢酸が高値を示す。腎下極レベルの腹部造影CTの横断像 (別紙 A-57) を別に示す。

鑑別診断に最も適した核医学検査はどれか。

- a FDG-PET
- b メチオニンPET
- c MIBGシンチグラフィ
- d ソマトスタチン受容体シンチグラフィ
- e タリウムシンチグラフィ



A- 58 22歳の女性。昨夜から左側腹部痛が出現、改善しないため受診した。発熱はない。触診上、腹部は平坦、軟であるが左肋骨脊柱角に叩打痛を認めた。腹部超音波を施行した。その腹部超音波像 (別紙 A-58) を別に示す。所見では左水腎症を認め、尿管を追跡した左下腹部縦走査において高輝度のエコー (矢印) を認めた。なお、写真上部の目盛りは1目盛りが1cmに相当する。

現時点での方針として正しいのはどれか。

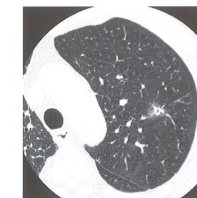
- a 経過観察
- b 抗菌薬投与
- c 輸液
- d 衝撃波碎石術
- e 体内碎石術



A- 59 50歳の男性。人間ドックの胸部単純CTで異常を指摘されて来院した。既往歴と家族歴に特記すべきことはない。喫煙歴と飲酒歴はない。身長 170cm、体重 65kg。体温 36.5°C、脈拍 68/分。血圧 130/72 mmHg。呼吸数 18/分、SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。心音と呼吸音に異常を認めない。肺野条件のCT (別紙 A-59) を別に示す。

この疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

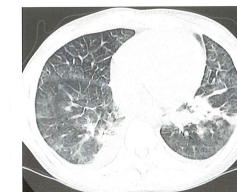
- a 胸部エックス線撮影で定期的な経過観察を行う。
- b 胸部造影CTが診断に有用である。
- c PET/CTは診断に有用ではない。
- d 肺癌の可能性が高い。
- e 直ちに抗癌化学療法を行う。



A- 60 20歳の女性。1週間前からの発熱、呼吸困難を主訴に来院した。近医で抗菌薬と感冒薬を処方され内服したが改善しなかった。最近、彼氏ができて喫煙を始めた。意識は清明。体温 37.9°C。脈拍 88/分、整。血圧 108/66 mmHg。呼吸数 22/分。SpO<sub>2</sub> 93% (room air)。聴診で胸部に異常音を認めない。血液所見：赤血球 456万、Hb 12.5 g/dL、Ht 42%、白血球 12,800 (桿状核好中球 10%、分葉核好中球 70%、好酸球 5%、単球 4%、リンパ球 10%)、血小板 28万。血液生化学所見：総蛋白 7.5 g/dL、アルブミン 3.8 g/dL、総ビリルビン 0.8 mg/dL、AST 20 IU/L、ALT 32 IU/L、LD 210 IU/L、ALP 300 IU/L、 $\gamma$ -GTP 40 IU/L。免疫学所見：CRP 7.8 mg/dL、KL-6 800 U/mL、 $\beta$ -Dグルカン 10 pg/mL。胸部単純CT (別紙 A-60) を別に示す。

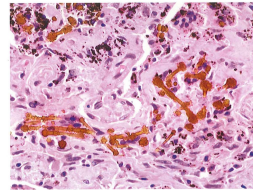
治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 酸素投与
- b ST合剤投与
- c 副腎皮質ステロイド投与
- d 抗結核薬投与
- e 気管支拡張薬投与



A- 61 65歳の男性。建設業に40年間従事している。3か月前から咳が出現し、次第に労作時の息切れと胸痛とを自覚するようになり来院した。経気管支肺生検組織のH-E染色標本(別紙 A-61)を別に示す。  
考えられる沈着物質はどれか。

- a アルミニウム
- b 石綿
- c 炭粉
- d ベリリウム
- e 遊離珪酸 (シリカ)



A- 62 19歳の女性。外陰部の強い疼痛を主訴に来院した。最終月経は24日前から5日間。月経周期は不規則。性交渉経験あり。3日前から38.4℃の発熱があり、外陰部の疼痛が出現し、増強し、排尿も困難となったため来院した。他の皮膚症状と眼症状を認めない。診察にて両側の外鼠径リンパ節の腫大と圧痛とを認める。腹部は平坦、軟で、圧痛と自発痛とを認めない。外陰部両側に発赤を伴う小水疱が複数みられる。一部の水疱が破れて浅い潰瘍を形成している。外陰部の写真(別紙 A-62)を別に示す。  
治療薬として適切なのはどれか。

- a アシクロビル
- b アンピシリン
- c アモキシシリン
- d スピラマイシン
- e アジスロマイシン



A- 63 27歳の男性。発熱、咽頭痛を主訴に来院した。2日前から咽頭痛があり、昨日から発熱があるため受診した。妻は6日前に発熱、咽頭痛を認めたが現在は改善している。身長 170cm、体重 65kg。体温 37.8℃。呼吸数 16/分。SpO<sub>2</sub> 97% (room air)。心音と呼吸音に異常を認めない。血液所見：赤血球 440万、Hb 13.5 g/dL、白血球 5,000、血小板 28万。血液生化学所見：CRP 1.5 mg/dL。胸部エックス線写真では肺炎像を認めない。唾液を用いたSARS-CoV-2のPCR検査は陽性であった。  
治療薬として適切なのはどれか。

- a アセトアミノフェン
- b プレドニゾロン
- c ニンテダニブ
- d トシリズマブ
- e パリシチニブ

A- 64 78歳の男性。発汗と悪心を主訴に来院した。前日の朝6時ころ、ソファに座って新聞を読んでいたところ、発汗と悪心が出現したが5分程度で改善した。当日朝6時ころ、リビングで椅子に座ってテレビを見ていたところ、再び発汗と悪心が出現した。これが60分以上持続するため、心配した家族に伴われて午前9時に受診した。高血圧症、糖尿病で自宅近くの医療機関に通院中である。体温 35.8℃。脈拍 96/分、整。血圧 128/86 mmHg。呼吸数 20/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。胸部聴診で異常を認めない。来院時の簡易測定血糖は195 mg/dLであった。検査所見：心電図では明らかなST-T変化を認めない。心電図検査後、速やかに心筋トロポニンTを測定したところ、結果は陰性であった。心筋梗塞発症からの時間による心筋トロポニンTの感度と特異度の表を以下に示す。

急性心筋梗塞発症からの時間	感度 (%)	特異度 (%)
2時間未満	20	95
2-4時間	55	70
4-6時間	65	65
6-12時間	95	70
12-24時間	95	65

1-0.55  
0.7

トロポニンTを測定する前のこの患者の急性心筋梗塞である検査前確率を70%と考えた場合、トロポニンTが陰性にもかかわらず急性心筋梗塞である確率に最も近いのはどれか。

- a 60%
- b 55%
- c 45%
- d 35%
- e 30%

2/3 x 1-0.55 / 0.7

A- 65 65歳の男性。胃癌による癌性腹膜炎、腸閉塞のため入院した。予後は1か月程度と推定されている。2週間が経過し、排便停止、腹部膨満、持続性腹痛 (NRS 6/10) および全身倦怠感のため緩和ケアチームに紹介された。PS 4、経鼻胃管が挿入されている。身体所見では、貧血、黄疸、痩せを認め、腹部は膨隆し波動を伴い、下肢に著明な浮腫を認める。  
実施すべきでない投薬・処置はどれか。

- a ステロイド
- b 利尿薬
- c オクトレオチド
- d 下剤
- e オピオイド

A- 66 29歳の女性。動悸と手指の震えを主訴に来院した。半年前から暑がりになり、多量に汗をかくようになったという。最近になり、動悸と手指の震えが出現したため受診した。脈拍 118/分、整。血圧 122/74 mmHg。頸部触診で甲状腺の腫大を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。手指に振戦を認める。血液所見：赤血球 431万、Hb 11.9 g/dL、Ht 35%、白血球 5,900、血小板 18万。血液生化学所見：総蛋白 6.0 g/dL、アルブミン 3.5 g/dL、AST 23 U/L、ALT 21 U/L、尿素窒素 12 mg/dL、クレアチニン 0.5 mg/dL、Na 141 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 108 mEq/L、Ca 9.8 mg/dL、TSH 0.1  $\mu$ U/mL未満（基準 0.5~5.0）、FT<sub>4</sub> 10 ng/dL以上（基準 0.9~1.7）、FT<sub>3</sub> 30 pg/mL以上（基準 2.3~4.0）、抗TSH受容体抗体 20.6 IU/L（基準 1.0未満）。

この患者のアレルギー反応の分類はどれか。

- a I型アレルギー
- b II型アレルギー
- c III型アレルギー
- d IV型アレルギー
- e V型アレルギー

A- 67 24歳の男性。交通外傷のため救急車で搬入された。問いかけに対して名前は言える。心拍数 120/分。血圧 74/50 mmHg。呼吸数 26/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。右前胸部に圧痛があり、大量輸液を行っても血圧の上昇がみられなかった。出血の持続と凝固障害の合併が懸念されるため、血液型の確定を待たずに院内にある輸血製剤を用いて輸血療法を行うことにした。

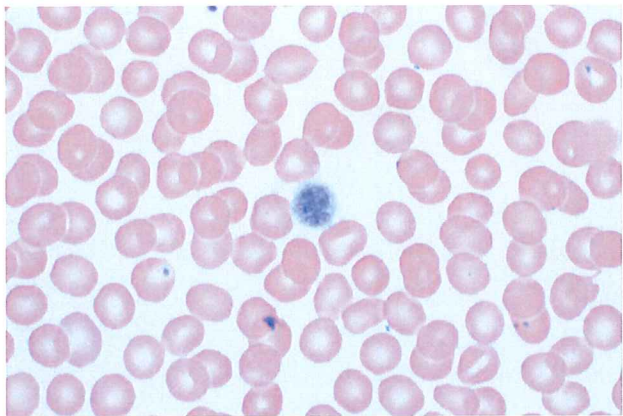
輸血開始時の赤血球液LRと新鮮凍結血漿LRの組合せで適切なのはどれか。

- |                                    | 赤血球液LR    | 新鮮凍結血漿LR  |
|------------------------------------|-----------|-----------|
| a                                  | O型Rh (+)  | O型Rh (+)  |
| b                                  | O型Rh (-)  | O型Rh (-)  |
| <input checked="" type="radio"/> c | O型Rh (+)  | AB型Rh (+) |
| d                                  | O型Rh (-)  | AB型Rh (-) |
| e                                  | AB型Rh (-) | AB型Rh (-) |

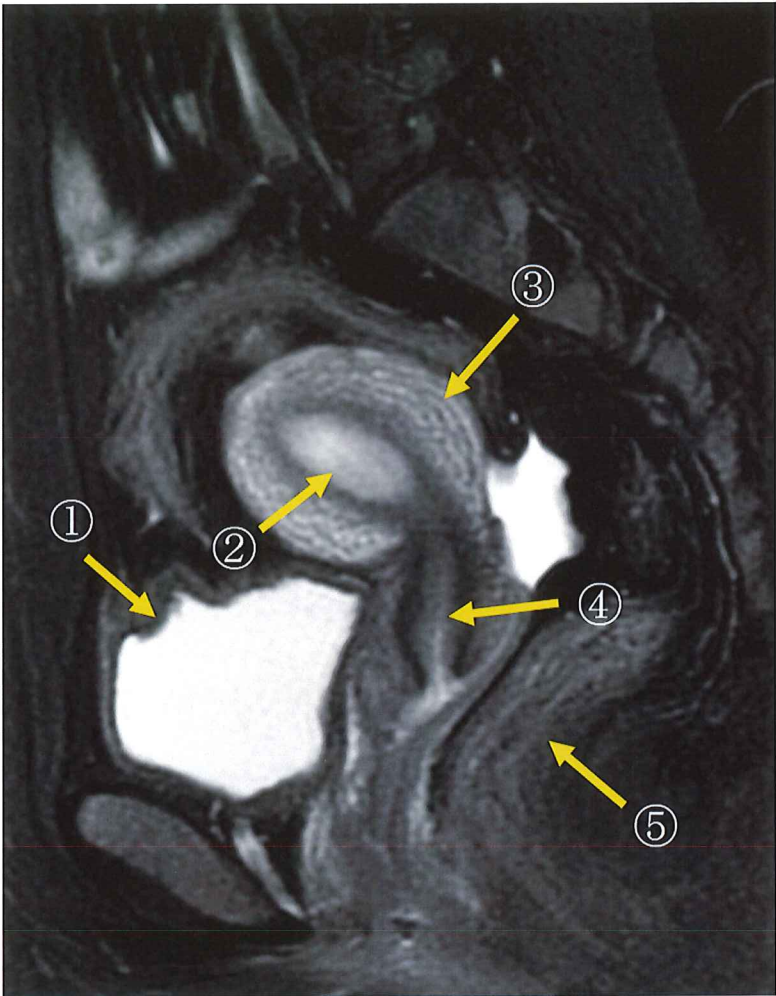
A- 68 55歳の男性。右利き。言語障害と歩行障害が生じて入院した。意識は清明、右片麻痺を認め、頭部MRIで左前頭葉から頭頂葉にかけての脳梗塞と診断された。発症5日目合併症はなく、現在リハビリテーションを行っている。意識は清明、生命徴候は安定しているが、重度の右片麻痺と失語症が残存している。

この時期に行うべきこととして誤っているのはどれか。2つ選べ。

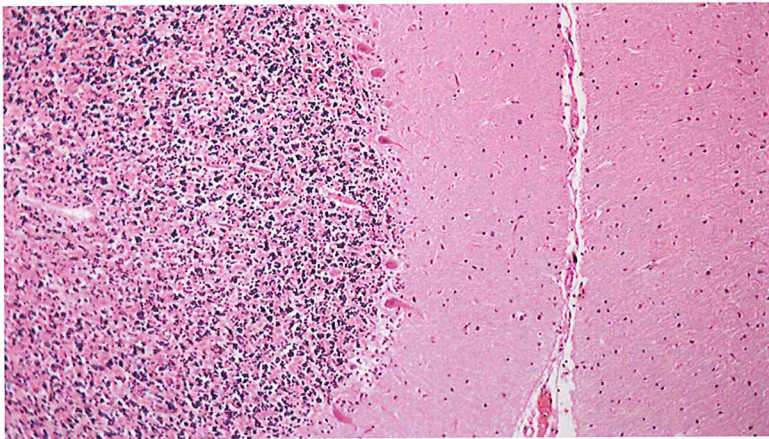
- a 座位訓練
- b 構音訓練
- c 爪切りの訓練
- d 摂食嚥下訓練
- e 利き手交換訓練



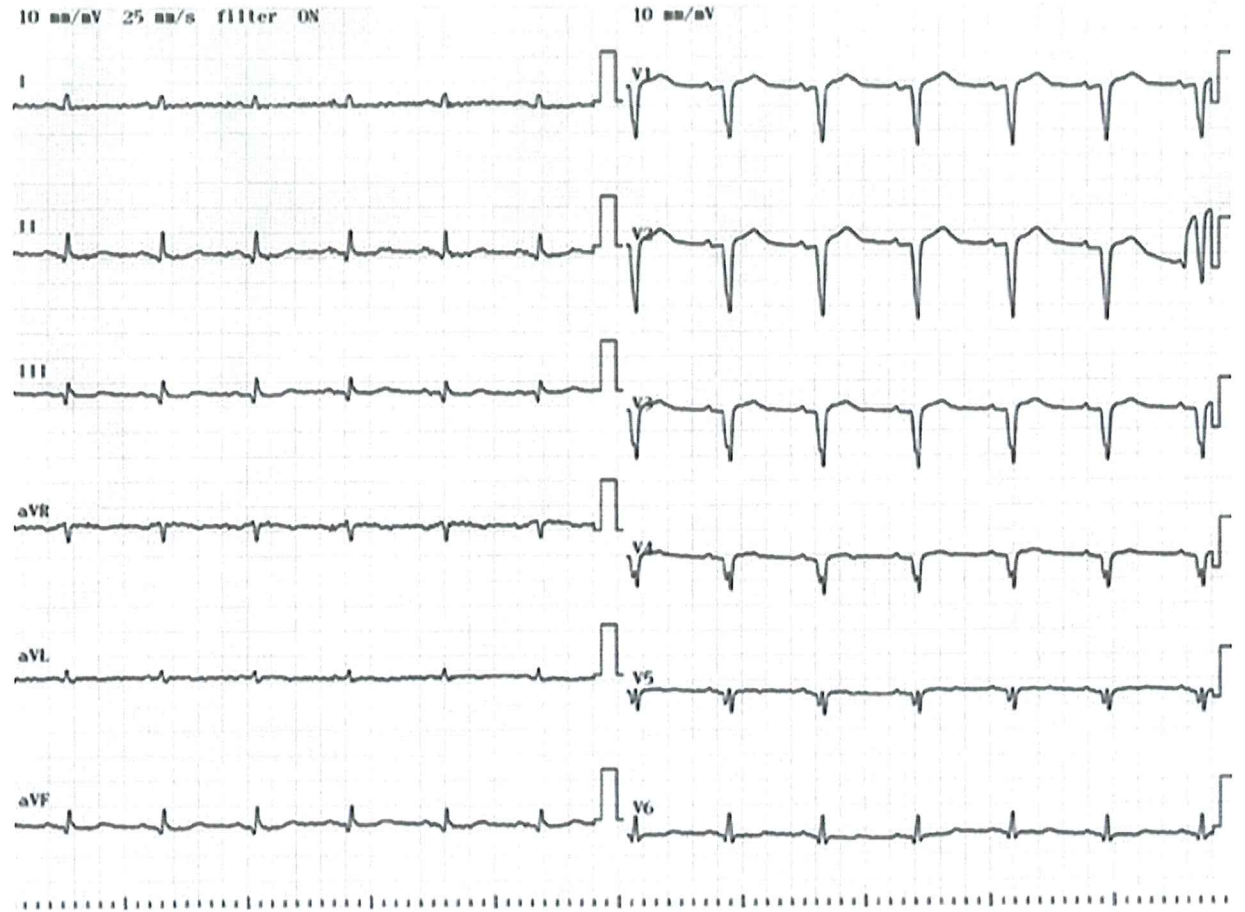
A-19



A-23



A-27



A-35

心エコー（左室短軸断面；拡張期）

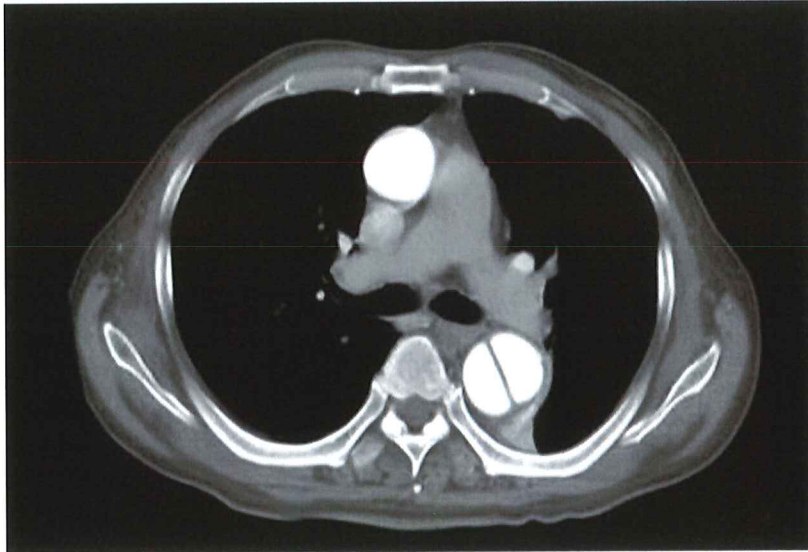


A-36A

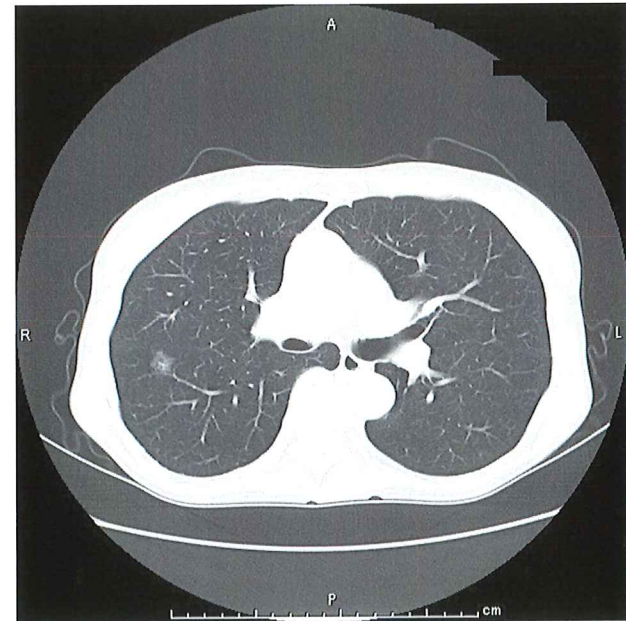
右心カテーテル検査

肺動脈楔入圧 (平均)	肺動脈圧 (収縮期/拡張期/平均)	右室圧 (収縮期/拡張期)	右房圧 (平均)
12mmHg	66/28/38mmHg	66/18mmHg	25mmHg

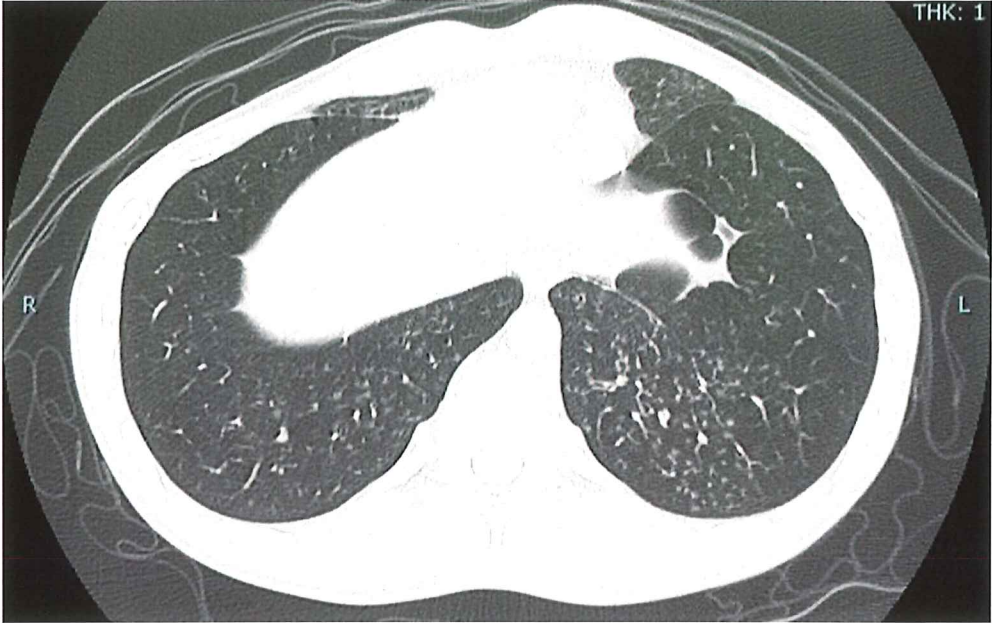
A-36B



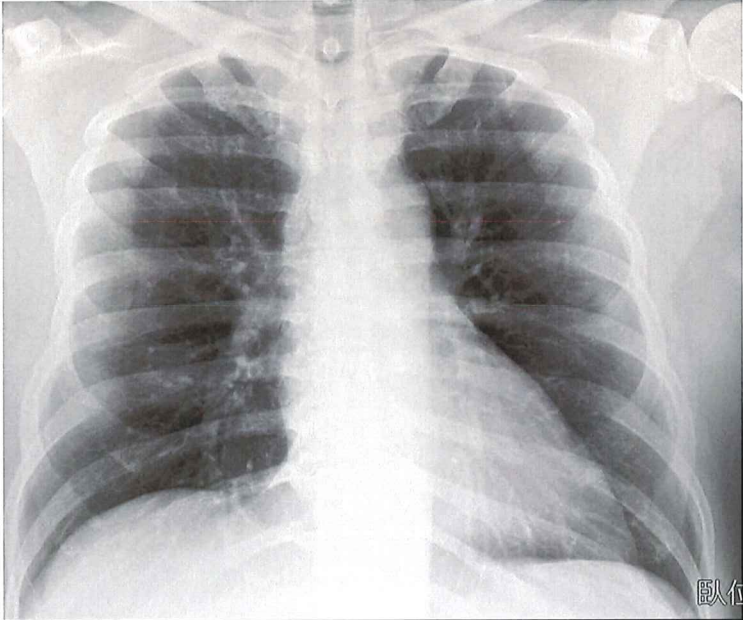
A-38



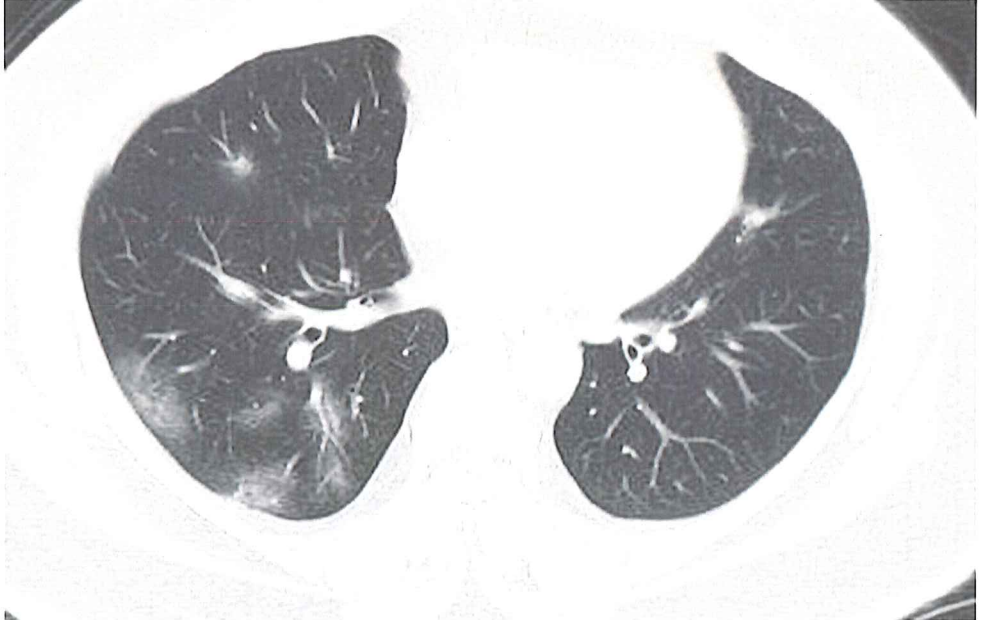
A-40



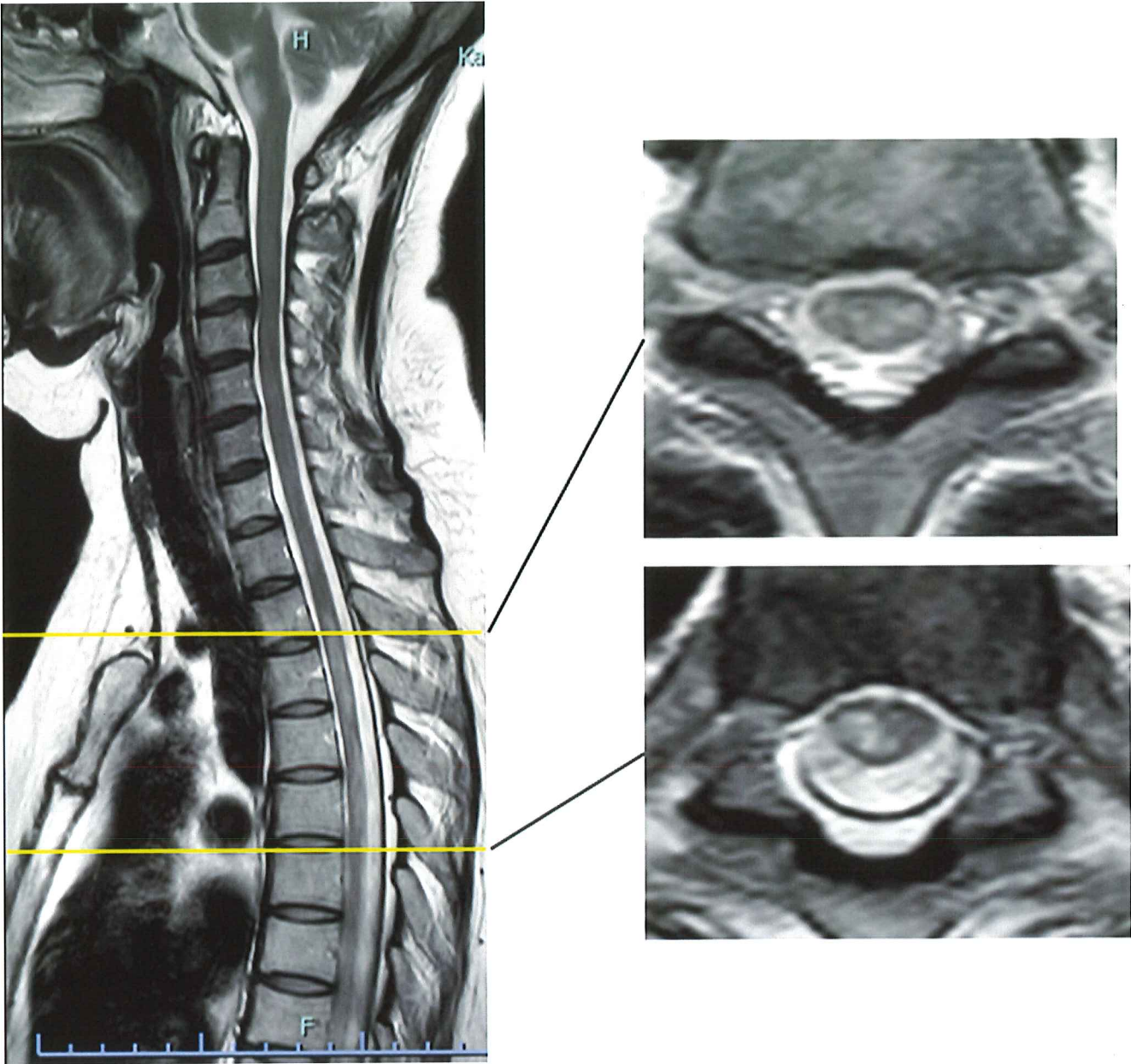
A-41



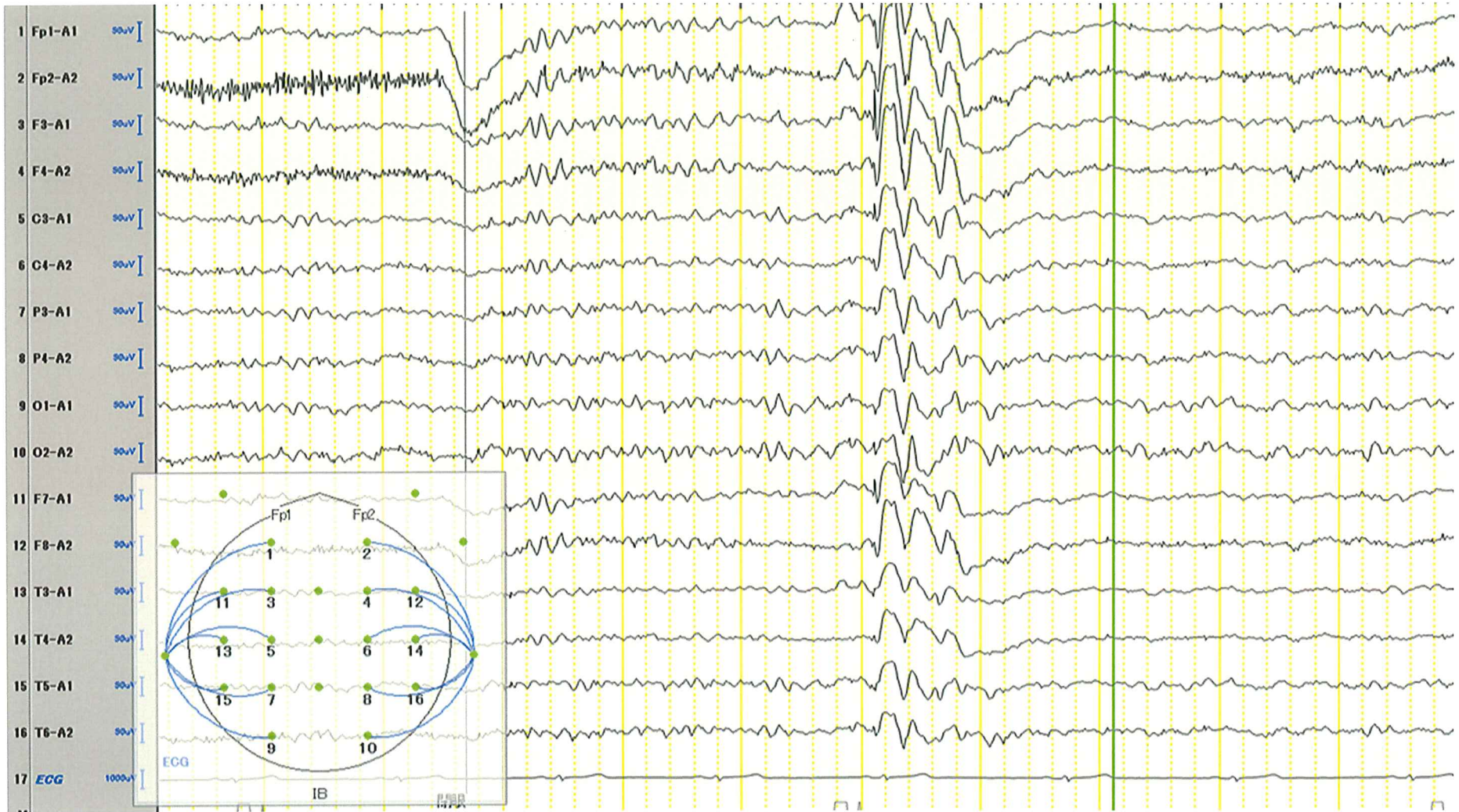
A-42A



A-42B



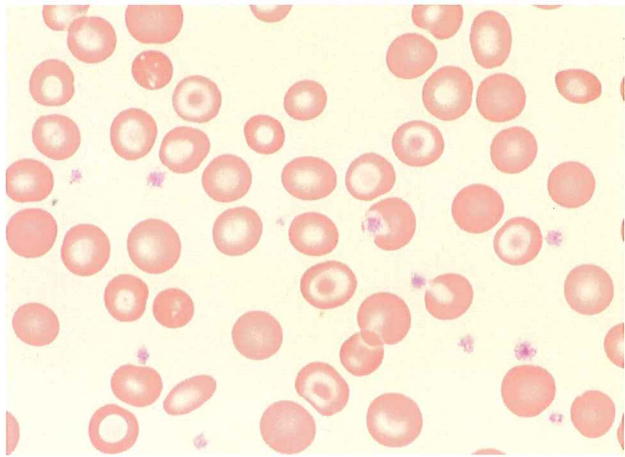
A-49



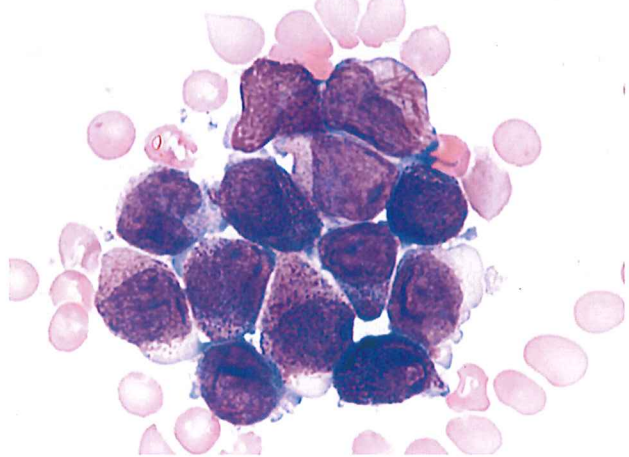
A-50



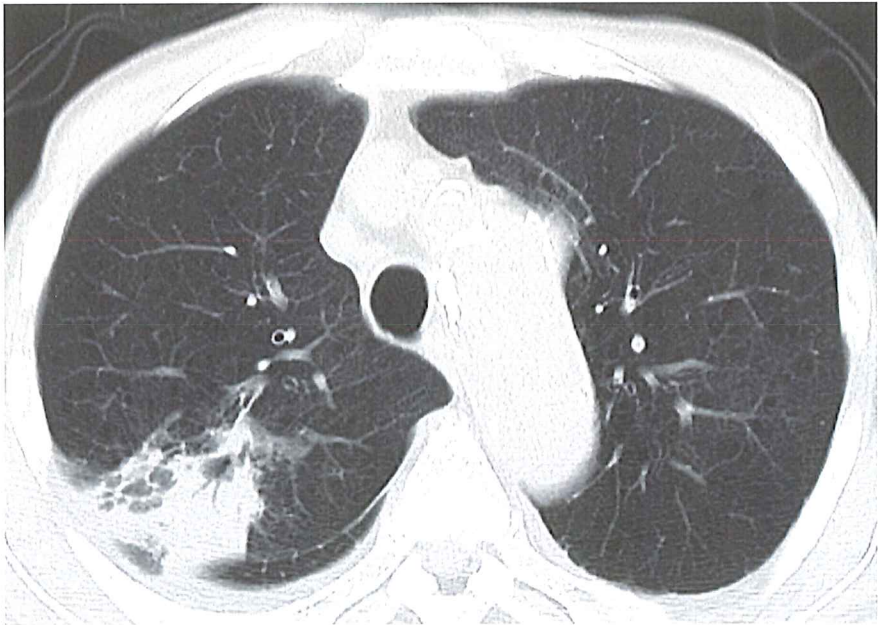
A-51



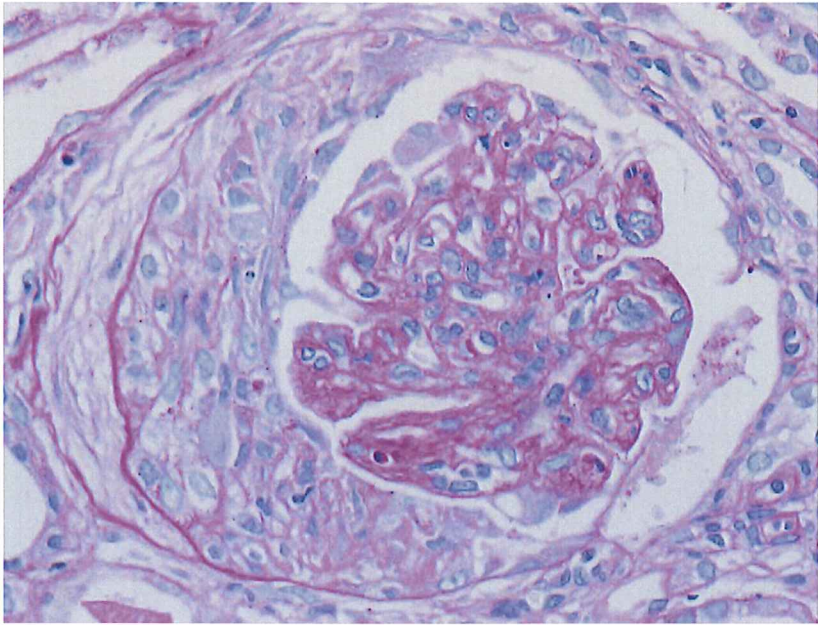
A-53



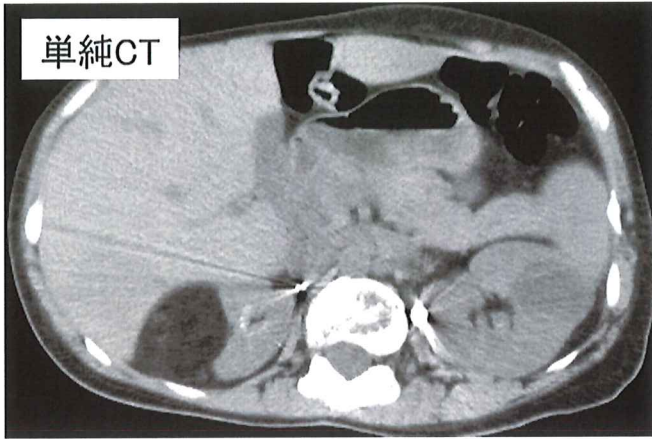
A-54



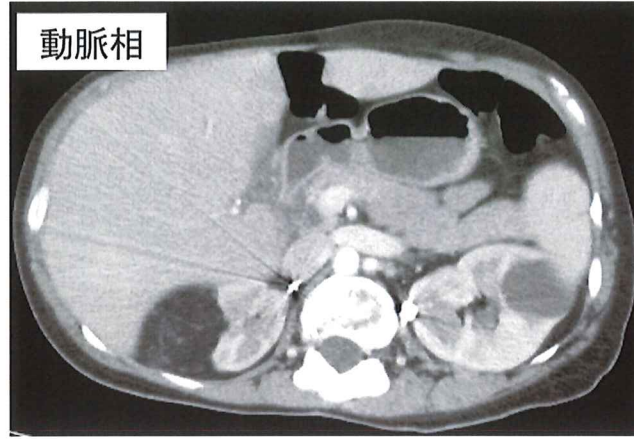
A-55A



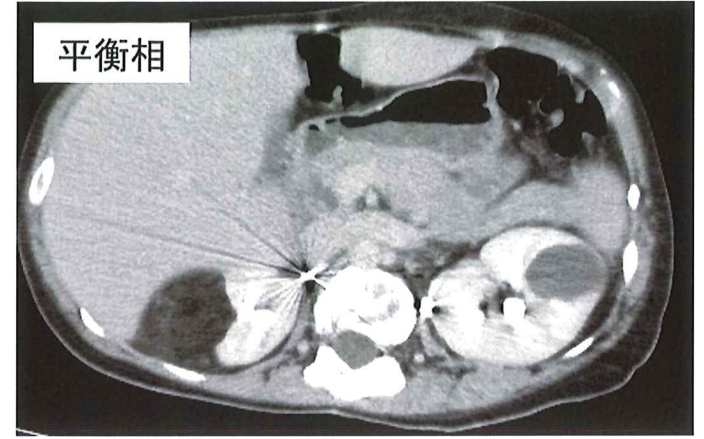
A-55B



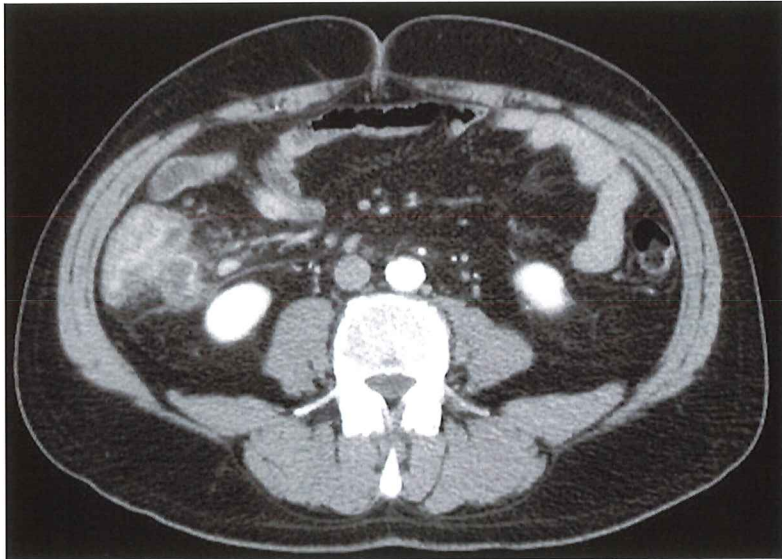
A-56A



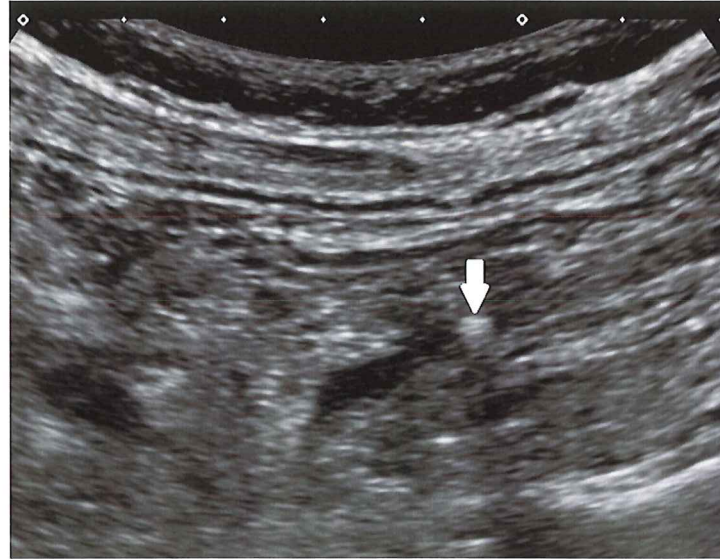
A-56B



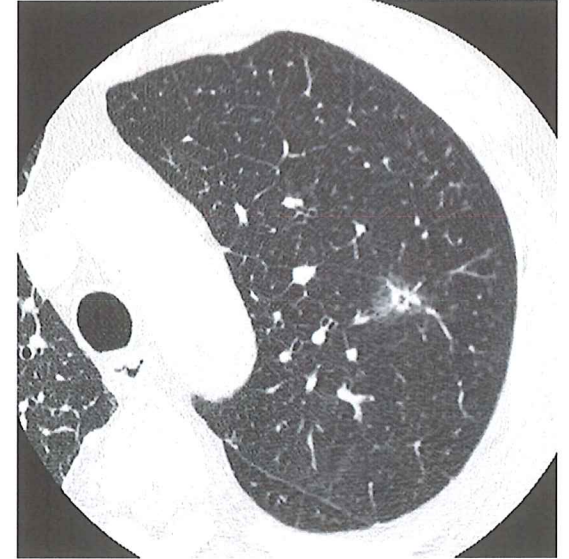
A-56C



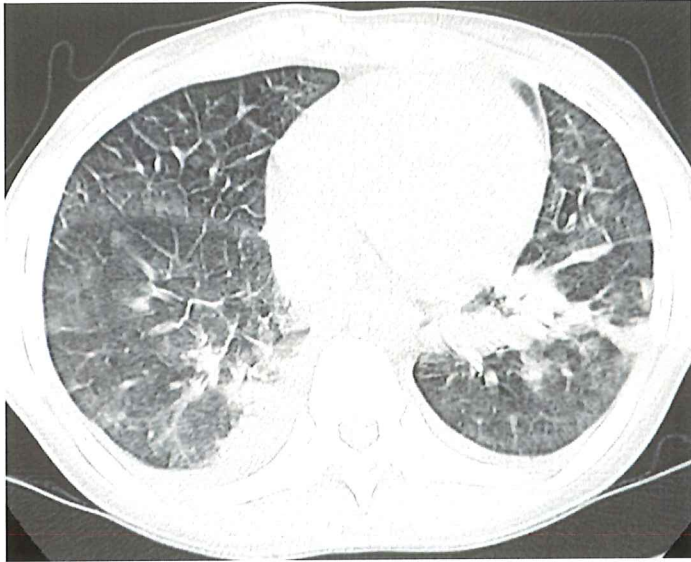
A-57



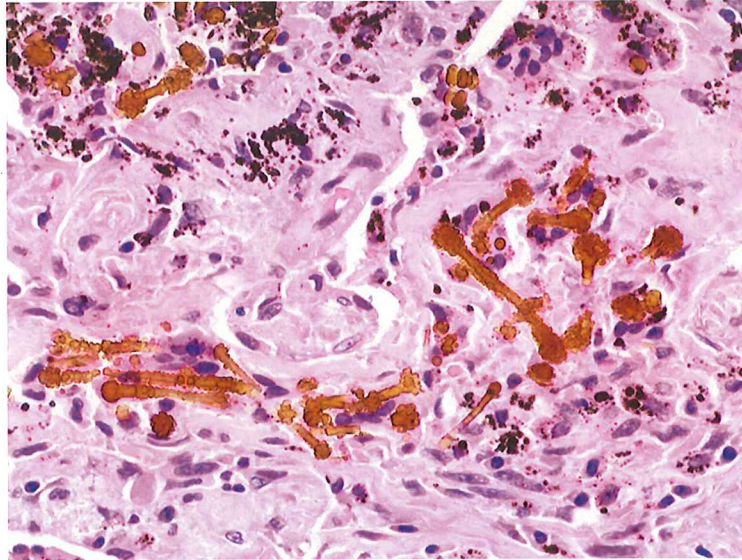
A-58



A-59



A-60



A-61



A-62